

## 令和2年度 美術学科 FD・SD 研修会①

「学科の学位プログラムレベルと科目レベルで学習成果の達成状況を評価し査定(アセスメント)する」

日時：令和3年3月25日(火) 10:30~12:30

進行：新井

参加者：東田 権田 堀 本山 新井 大谷 和田 大場

新年度を迎えるにあたり、学生アンケートなどをもとに令和2年度の授業に関する総括と新年度の遠隔授業について意見共有を行った。

### ○授業アンケートに対する振り返り

配布された授業アンケートを振り返り、意見の共有を行った。特にデザイン1年生、油画日本画2年生、ゲーム2年生などはアンケートの値も高く、授業への満足度が高かった。担当教員の丁寧な学生への対応が評価につながっている。また、環境面の不満は、毎年要望としてあがってくる。デザインソフトのバージョンが低い、教室が狭い、Wi-Fi環境が不便等である。特に、デザイン、インテリアの教室は学生20-25名に対し狭く、環境に対して学生から不満があがっている。次年度はさらに学生数が増加するため、コース決定が行われる後期に向け、具体的な改善策を探ることになった。1年生、2年生それぞれのHRとして2教室確保してある。これを一教室にし、週一回行っているミーティングを104で行う、などの案も出た。また、104教室など大教室での講義においては席の後方は使わないよう指導することで、授業への参加意識をあげる、といった工夫も共有した。

### ○GPA値が適正であるかの検証

美術学科それぞれの授業において、以前のFD等の成果もあり、概ね適正であった。

### ○保護者アンケート・卒業生アンケートの共有

IR委員会で配布された資料のうち、一部を抜粋して共有した。中でも保護者のアンケートにおいて美術学科はやや辛い点がついていた。実技を中心とする授業と遠隔授業の相性の悪さもあったが、3割弱の保護者が短大についてあまり満足していない結果がでている。それらを踏まえ、次年度、遠隔授業に移行するとしても、速やかに情報伝達を行うよう準備することを確認した。

### ○遠隔授業を見据えた Google Class Room の導入とクラス Line の運用について

次年度、急な遠隔授業へ移行せざるえない状況になっても困らないよう、準備しておくことを確認した。新井から google class room の活用を簡単に紹介した。共通のプラットフォームを使うことで、学生の手間の軽減にも繋がるのが期待される。また、新入生にたいして、美術棟の Wi-Fi 環境や、Google class room の使い方などじっくりと対応する日を設定することを確認した。

